

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
77

2021 文月・葉月

特集／開祖生誕110年を記念して
— 美作を訪ねて思う 宗道臣、志の萌芽



特集 開祖生誕110年を記念して

——美作を訪ねて思う 宗道臣、志の萌芽

本年は開祖 宗道臣生誕110年という節目の年です。そこで、道院長、門信徒各位が開祖の志に思いを馳せ、その志を胸に日々の修行・修練に精進していただくことを願って、本号では、開祖に関する特集といたしました。

現代は敗戦当時とは時代は異なれども、大規模な自然災害、そして、感染症の拡大に伴う「人間生存」への激震の最中を私たちは生きている、といっても決して大げさではありません。そこで、皆さまに今一度、宗道臣という一人の人物に思いを馳せ、金剛禅の教えを学んだり、少林寺拳法を修行する目的や価値を再認識したりしていただきたいと思います。

開祖の志

少林寺拳法（金剛禅）開祖、宗道臣は、明治44年2月10日に生を受けました。日本は大正から昭和初期にかけて、中国をはじめ欧米諸国を相手に、戦争という激動の時代に突入していきます。宗道臣も激動の少年期、青年期を過ごすことになるのです。

時は遡ること昭和20年8月9日未明。東満州綏陽^{すいよう}県の自宅にいた中野理男^{みちの}（当時34歳、のちの宗道臣）は、突如としてキーンという鋭い飛行機の急降下音とともに轟く爆発音にハッと目が覚め、反射的に飛び起きました。窓越しに外をのぞき、間もなくソ連軍の爆

撃開始であることを知ります。それは、日ソ不可侵条約を一方的に破棄したソ連の参戦を意味するものでした。しかし、日本軍の主力部隊は「出動」と称して日本の住民を置き去り、すでに後方へ逃げ出してしまっていたのです。

この時理男は二つの怒りを感じます。一つは住民を置き去りにした日本軍への怒り。そしてもう一つは、すべての人に過酷な運命をもたらす戦争への怒り。

そこから理男の命懸けの脱出行が始まります。その脱出行の途中で、理男は人間の赤裸々な姿を目の当たりにすることになります。それは、「極限というギリギリに追い込まれた人間は、

自分が生き残るためには、隣同士はもちろん、たとえ親子であっても殺してしまうという、すさまじいばかりの生への執念ともいえるべき醜い姿」でした。理男は、この時の思いを次のように述べています。

人間は、平穏なときはいくらでも自己の本性を隠し、表面を飾ることが出来るものであるが、いったん秩序が乱れたときこそ、赤裸々な本性がむき出しになってくるものである。また、法律、軍事、政治のどれをとってみても、それを運用する人の人格や考え方によって、結果において大きな違いが出てくることを、私は苦難のなかで発見することがで



1990年に復元された開祖生家（岡山県美作市）

きたのである。

それは決して、人間の身分や学歴などで左右されるものではなかった。地獄のような受難は不幸な出来事ではあったけれども、結果として、人間の本质を見きわめ、私の人生観を変える、またと得られない貴重な体験となったのである。

人、人、人、すべては人の質にある。

世の中が、たとえ、どんなふうに変わろうとも、人間が地上に生きつづける限り、すべてのものが「人」によって行なわれるとするなら、真の平和を達成するためには、勇気と正義感と慈悲心に満ちあふれた、強く、正しく、やさしい人間を一人でも多くつくる以外に方法はない、と私は痛感した。〔少林寺拳法奥義〕

この理男の発見は、のちに少林寺拳法を創始する志の萌芽となるものでした。

そして、「万一日本に生きて帰国することができたら、祖国復興のために役立つ人間を育てることに残りの半生を捧げる」ことを決意し、日本への引き揚げ後、1947年、香川県多度津の地に居を構え、人づくりによる国づくりという大いなる志を抱いて、幸福運動（金剛禅運動）を始めたのです。



開祖生家内部

開祖を育んだ原風景

では、宗道臣がどんな少年時代を過ごしたのだろう、ということと、今回は本山職員（細川真志、内藤大将の二名）が開祖生誕の地、岡山県美作市（みまさか）を訪れ、開祖の生まれ育ったまち（当時江見村とよばれていました）で肌で感じて来たことを、皆さまにレポートさせていただきます。

レポート1.

「乳母車事件」

美作において理男少年が経験した重要なエピソードがあります。それは、乳母車事件です。後に開祖自身も「自

分がそうしたいと思い、そして、自分がそうするように努力すれば、自分は必ず変えられるものであることを、わたしは理屈でなく、体験を通して、このときはじめて自分で発見した」と、講習会などの機会に何度も話をされています。

この原体験が理男を大きく成長させ、後の人格形成に大きな影響を与えたのです。もちろん金剛禅の教えの中にも強く反映しています。

▼乳母車事件（「少林寺拳法 五十年史」より要約）

ある日理男は妹二人を連れて、かまどに焚きつける粗朶（そだ）取りに山に入った。帰る途中、村の子供達が道端で遊んでいる。粗朶を背負い妹の手を引いている理男は、道をよけて溝一つ隔てたあぜを通って帰った。

しばらくすると村の有力者が怒鳴り込んできて、「いきなり乳母車を溝に落とし、幼子に怪我をさせた」と言う。乳母車はあぜの反対側に止めてあったので、その時いた子供が口裏をあわせてウソをついているのは明白だが、理男の弁解は相手にされなかった。

翌日、理男は有力者の家に乗り込み、薪をかざして息子に「本当のことをいえ」と言う、騒ぎに駆けつけた親の前で、彼は泣きながら許しを乞い、真実を白状した。こうして理男は無実を晴らしたのである。



事件があったとされる場所

正義に則った正しい努力を行えば、必ず良い結果に結びつくという、因果の法則や縁起の法則をはじめ多くの教えに通じています。

さて、改めてその事件が起きたとされる場所に立ってみると、普通なら身の潔白が証明されて良かったで終わるところですが、自分が正しいと信じることを、勇気をだして努力すれば報われる、というふうに理解するところが並の子供ではなかったと感じます。

レポート2.

「半ばは他人の幸せを」

理男少年は、常に妹二人の面倒を見ていました。多忙な母親に代わり、手をつないで歩き、屑鉄くずてつを拾ってお金に替えては駄菓子を与え、離別しているときは会いに行き、さらに、妹が里子に出されるくらいならと自分が家出してしまふのです。家族として兄としての愛情と責任感がそうさせたのでしょう。周囲の大人からは、体が大きくわんぱくであったとも、女の子のように優しい子だったとも言われています。

また、理男少年は、人一倍感受性が豊かで、感じたことをよく考えて腑に落としてから行動するということが身についていたようです。

やがて15歳のときに母と下の妹を、翌年には上の妹と祖父を亡くし、16歳で天涯孤独となります。



開祖の母と2人の妹

その後、理男は二度三度と満州にわたり、現地での仕事に従事することになります。その仕事の傍ら、食料や燃料などの生活物資を調達したり配給したりする仕事にも携わるようになります。この仕事において、理男は日本人と中国人の差別をすることなく、また、個人レベルの相談にも親身になって対応していたことから、周囲からは、いったん約束したことは必ず守る人だという信頼を得、「一定先生（イーディン・シェンション）」と呼ばれるようになるのです。

乳母車事件で自覚した正義感と行動力、母や二人の妹を心の底から思いやる優しさ、そして、差別なく人と接し、言行が一致していることから得た信頼感……、それらがすべてつながって、「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」の精神へと昇華していったのでしょ

う。自分だけでなく、他人の幸せも本気で考え、行動できる人を育てる。まさに幸福運動の実践。理想境建設への挺身。それが、宗道臣が生涯を通して取り組んだ一大事業なのだと、思いを新たにしました。

レポート3.

「創始が多度津であること」

地元の方に伺ったところ、美作には



古くより因幡街道（姫路―鳥取をつなぎ、美作には大原宿おおはらしゆくがあった）と、出雲街道（姫路―出雲をつなぎ、美作には土居宿どいしゆくがあった）があり、交通の要衝であったとのことでした。山陰地方の鉄や銀を関西に流通させ、出雲詣もちでの参拝者が通った街道に挟まれたところに美作は位置しています。開祖の育った地は山間部ではありませんが、地域やその中心部では経済的に恩恵を受けていたことが予想できますし、そのことを勘の鋭い開祖は感じ取っていたことも推察できます。

そのようなことから、中国から引き揚げてきた後、大阪で工業薬品のブローカーをしていた理男が多度津に目をつけ移り住んだのも、幼い頃の記憶や経験が影響していたのかもしれない。多度津も海路と鉄道の二本の道が交わり、港のすぐ横に駅がありまし

た。それぞれの道は経済を支える道でもあり、金毘羅詣こんぴらもちでの信仰を支える道でもありました。なぜ多度津で少林寺拳法が創始されたのかということも、開祖の人生の延長線上に多度津があったからで、それは大いなる働きとしての縁の力なのかもしれません。

開祖生誕110年を機に、開祖の遺された教えがどのような背景から生まれたのかを調べ、想像していただくと、あなた自身の中で何か新たな意識が起ころのではないかと思います。それはあなたの修行の大きな助けになるでしょう。道院長や幹部の皆様におかれましては、「少林寺拳法五十年史」の一節を紹介し、皆で話し合いしてみたいかがでしよう。コロナ禍で修練が普段のようにできないのであれば、オンラインで実施してみてください。

（次号につづく）



寄付金額3,000円以上の希望者に、返礼品として少林寺拳法五十年史（正史のみ）を贈呈させていただきます。（在庫限り）

／問合せ先…一般財団法人少林寺拳法連盟



開祖語録 ダイジェスト

1974年8月
大学合宿



何よりもまず「己は人間としてどうであろうか」——ここから出発すべきです。君らだってそのうちきつとわかる時がくると思うが、この世の中でいちばん大切なものは何かといったら、ひとりひとりの人間じゃないの？ 身近に言うなら、家族や友達が幸せに暮らせるかどうか。中には、いえ思想ですとか、国やら会社への忠誠心ですとか堂々とおっしゃる人がいます。でも私は、人間の前にイデオロギーや思想を置いたり、「生きていく人間のため」が優先され大事にされないような何やらは、もうご免、間違ってると思う。

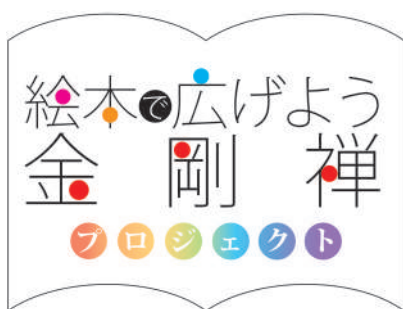
人間という存在を考えるとときにスタートとなるのは、我という自分だし、自分を大切にすること、ないから、すべては始まる。言葉を変えたと、自分を大切にすることになって初めて他人が尊重できるようになる。「俺が痛い目にあうのはいやだけど、他人がするのは知ったことか」、このレベルでしか物事を感じられない人は、他人どころか自分も大切にできないまま人生を終えてしまふ、違うかな？

私は小さいときに親父に死なれ、妹二人を抱えて母親と苦労したせいもあり、自分は食べなくても妹やお袋には食べさせてやりたい、そういう、

己と同時に他人のことを思いやれる

与えたい愛とでもいう気持ちをもいつも切実に感じて育った。こっちも子供で稼ぎ手まではいかんと母親の手伝いがせいぜいだったし、3人ともやはり早く死んでしまったから、実際には何もしてやれませんでした。でも、そんな自分以外の存在をいたわりたい、かばいたい、ちよつとでも喜ばせたい……、いつの時代だろうと、どこの国の人であろうと、これ普通の人間なら心にフツと湧いて出る自然な感情、思いじゃないのかな。だから己がかわいいと同時に他人のことを、ましてやそれが自分より弱い存在ならなおさらだけど、半分以上でもいいから思いやれる、子供のときに芽生えたこの気持ちを、私はずっと大事にしようとしてきた。また、してきたからこそ半ばは自己の、半ばは他人の幸せを、「人を生かして我も生かされる」といった、その後の私の考え方の基本にもなった。

そんなのは理想論、綺麗事すぎると言い張る人はしょうがないにしても、私の主張に多少とも共感するところがあるなら、気持ちのままに行動してみろよ。堂々めぐりを気分的にいくらしたって何も生まれないし、失敗してもやってみるほうが、よほど答える次の方針も出てくる。



三重津東道院
監事 秋田ちひろ

コロナだけでもできる読み聞かせ

コロナ禍により修練を休止した昨年の夏、幹部拳士の発案で「ウェブ会議アプリ」を活用した修練を行った所、物珍しさもあり、修練は大いに盛り上がりました。この経験から、「絵本の読み聞かせも同じアプリでやってみてはどうか」ということになり、有志が集まり早速テストを開始しました。

女子高生拳士に絵本を読んでもらい、小さなお子さんがいる拳士に聞き手になってもらいました。実際にやってみると、絵本が見えづらかったり、音声のトラブルが

起きたり、読み手からは「聞き手の表情や反応を見ながら読みたい」などなど、やってみて気付くことばかり。事前のテストで賑やかに楽しみながら調整を繰り返し、いよいよ本番当日。「じごくのそうべえ」を読み手が楽しくテンポの良い関西弁で語り始めると、パソコンの画面からは子ども達の笑顔と笑い声が何回も溢れてきました。「コロナだからできない」と嘆くより「コロナだけできる」ことを実感できた読み聞かせでした。

最近読んだお薦めの絵本

◎じごくのそうべえ

作・絵：田島征彦
出版社：童心社



桂米朝の高座で名高い上方落語の「地獄八景亡者戯」（じごくばっけいもうじゃのたわむれ）を題材に、関西弁を駆使して描く、スケールの大きな落語絵本です。第一回絵本にっぽん賞を受賞した、ユーモラスなストーリーが子どもたちに大人気のロングセラー絵本。

こころと

「悉く書を信ずれば則ち書無きに如かず」

「悉く書を信ずれば則ち書無きに如かず」という言葉がある。いくら優れた本であってもそのすべてを信じてはならない。言い換えるなら、それなら読まない方が良いということだが、これは他にも通じる。

現在は情報社会である。インターネットの発達によりリアルタイムで情報が世界を飛び回る。しかし、その情報のすべてが正しいとは限らず、また、誇張や着目の違いにより何が正しいかは、自らの基礎知識や見識により判断しなければならない。

人に対してもまた同じで、道訓には「師を重んじ」と書かれているが、悉く付き従うことではないし、重んじるということはどのようなことを考える必要がある。

五月二十三日、絵本作家のエリック・カール氏が死去された。全世界で愛された絵本「はらぺこあおむし」の作家である。

各道院でも絵本の読み聞かせを行っているが、絵本は絵を通して人の心や情に働きかける。文章でない表現であり、これは、言葉が必要としない。ちいさな子供達の心がモヤモヤ、ワクワク、ドキドキすれば良い。そこに答えはない。そんな絵本が好きなのだが、作

家死去の新聞記事をみて、改めて「はらぺこあおむし」と、「パパ、お月さまとつて！」を開いてみた。

絵本を言葉で表現するのは「愚」といえるが、表紙を開いて、次々進むと、ワクワク、ドキドキ。そして、なぜか心が温かくなる。色彩、筆のタッチ、紙面構成、数ページを見終わると、なぜか心がホッとする。それから毎日、就寝前にこの二冊の絵本を開いている。なぜかザワザワした心が静まり笑顔になる。

せっかくの絵本、解説など必要ない。見て感じたままを素直に受け取ればよく、湧きあがる感情も自由。そして、この絵本でのメッセージが最初は作家自身の大切な一人のために書いたことが解るし、その思いの深さが心を捉える。その深い思いや感謝の心が清々しい。

絵本には冒頭の孟子の言葉は必要ない。絵本が養うのは、親が表情から赤子の気持ちを感知しようとする情と同様であり、察するといふ心である。

コロナ禍は、心に陰りをもたらし、身近な人の命が奪われる恐怖を惹き起こす。このような中、安心、安全の担保についての質問や、

政治責任の追及等、何かと他者や社会の責任を問う声があるが、そもそも安心で安全なことなど厳密には存在し得ない。

安心も安全も自らの心の内であり、自分が安心したいし、安全であると言ってほしいという感情といえる。

開祖は、「私自身の言葉であってもすべて信じるのではなく、自分で考える力を養え。」と言われていたと記憶する。そこに開祖の魅力があり、心が動かされる。

金剛禪門信徒は、コロナ禍の今こそ、再度、開祖法話に耳を傾け、何度も反芻して読み聴きし、開祖の写真を見た時に写真から言葉が聞こえてくるくらいまで自らに問う時ではないかと思う。開祖の教えを反芻して、そこに立ち帰り、自分が感動し、没頭し、人に伝えようとして抑えられなかった感情を思い起こし、「世の中を変える」と奮い立った感情を次世代に継承し、共有することが大事だと思う。皆が「はらぺこ」の時代に創始された金剛禪は幸福運動。はらぺこあおむしは、鮮やかな蝶になる。

行の門宗

このコーナーでは易筋行が人づくりの手段たりうるために、調和の思想やダーマ信仰、三徳(護身練胆、精神修養、健康増進)、修練方法、身心の用い方等を切り口として、日々の修練と日常生活がリンクするように、易筋行とは何かを考察していきます。今回は、協力関係を培い、修練を行とするために必要な意識の持ち方と、指導の際に使われる言葉について考えてみたいと思います。



護身の技術ではあるが

「宗門の行」である少林寺拳法は、技術的な側面からみて、護身としての技法体系が整えられています。このため、修練時には、「この法形は相手(敵)がこう攻撃した時に行う技です」とか、「この法形ではこの急所をこう攻めます」といような説明をしたり、受けたたりすることがあると思います。

これらは正しい説明ではありますが、このような言葉を繰り返すうちに、耳にすることによって、つい攻者を「敵」という前提で、手荒に扱ってしまう場合があるのではないのでしょうか。また、攻者役になったときには、「そんな技ではやられないぞ」と、むきになって対抗的な態度を取ってしまうこともあるのではないのでしょうか。

一方、指導する方も、相手を「敵」と想定し



て技術指導を行う場合には、「実戦で使える技」「こうやった方がより威力がある」「実戦ではこのように攻撃してくる」といった説明になるでしょう。

護身の技術の習得という観点においては、そのようなシビアさは当然でしょう。開祖も少年の頃、「親の仇だと思って掛かってこい」と祖父から剣術の手ほどきを受けました。しかし、そのような指導法を受け続けると、自分以外は敵であるという考え方や価値観が形成されししまうことを指摘され、宗門の行としての少林寺拳法を創始されたのです。

敵ではなく協力者

私たちが修練する際に守者が意識しなければならぬことは、攻者は、守者の上達のために自身の身体を提供してくれているということ、時には、痛い目を買って出ても守者の上達のために付き合ってくれているということです。

逆に、攻者を務める際には、正確な攻撃を心掛けることはもちろんですが、守者の上達を図るために攻撃をしているという意識を持つことです。具体的な例として、「相手の顔を本気で殴ってやろう」と思って突きを出すのと、「真剣に突くけどしつかり躲(かわ)して護れよ」と思って攻撃する修練とでは、まったく違った意味があります。

このように、守者になった場合には、「相手は私のために攻撃してくれている」という意識を持つことが大切です。また、攻者を務める場合には「相手に上手くなって欲しい」という意識で攻撃をすることです。そして、この攻者、守者の役割を入れ替えることで、相

手の立場で考えられる訓練にもつながるため、少林寺拳法の修練が「行」と言えるのです。

今回は、法形を説明する際に何気なく使われる言葉と、修練における意識の持ち方について考えてみました。

皆さんも修練時にどのように説明しているか、練習相手とどのように向き合っているかを再確認し、単なる護身の技術ではない人づくり(自分づくり)の行として取り組んでいただきたいと思います。

(中川 純)

DISCUSSION

さらに考察を深めるため

- 攻者の時、どのような意識で攻撃を行っているか確認してみましょう。
- 守者の時、攻者に感謝の気持ちや攻者の身体にいたわりの気持ちがあるか確認してみましょう。
- 修練の終わりに、単なる護身の技術の修練になっていなかったか、人づくりの行として行えていたか振り返ってみましょう。

道院長

元気の素

大阪府・東大阪孔舎衛道院
道院長 樋口和宏(38歳)

道院長になったきっかけ

私は、東大阪孔舎衛道院の前身である大東道院で、小学生から少林寺拳法を始めました。大学や就職で少し道院からは離れていたのですが、2011年に帰阪し復帰したところ、修練場所の都合などもあり、そろそろ道場を開めるとい話を聞きました。その時に、前道院長の磨家正明先生より道院長をやってみないかとお話を頂きました。このタイミングでお話が来たのは偶然ではないな、と考え準備を始めると、修練場所も確保でき、職場の理解も得られましたので、これはやるしかないなと。さらに、磨家先生からは「やってみて、ダメやったらやめたらいいよ」という言葉を頂き、気持ち少し軽くなり、道院長になる決心ができました。今考えると、磨家先生に上手く乗せられたのかもしれないですね。

「拳士主体」の修練

道院では、毎回リーダーを決め、その日の目標を定めて修練を行うよう指導しています。できるだけ自分たちで何を学ぶかを主体的に考えてもらい、

「教えてもらう」のではなくて、自分から「学ぶ」気持ちを持ってもらうことを大切にしていきます。指導法と言えど、その力はまだまだありませんが、他のスポーツや武道から様々な練習法を取り入れていきます。少林寺拳法の基本をおさえたいうえで変化をつけることで、できるだけ飽きない練習を心掛けています。

道院長としての喜び

道院長になってからは、自分よりも拳士の成長を見ることが一番嬉しいです。私が道院長になって初めて入門してくれた小学生の拳士が、高校受験で合格発表を見に行ったあと、その足で私の所へ合格を報告しに来てくれたことがありました。そのほかにんだ笑顔は忘れられません。

また、先日、拳士に「樋口先生は100歳になっても先生やっていそう」と言ってもらったので、100歳まで道院長をやりたいと思っています。その時は、今は小学生の拳士たちも70歳くらいになっていますが、一緒に修練ができれば、これ以上嬉しいことはありません。

仕事や家庭との両立

専有道場は、会社と同じ建物にあります。そのため、少林寺拳法の活動にも理解を頂いており、ご協



力頂きながら両立を図っております。修練日は、皆が寝静まったからの帰宅となり、家族に負担は掛けていると思います。そのため、休みの日などは家事を交代したり、子どもを公園に連れて行ったりと、できるだけ家族サービスができるように心掛けています。実際にどれだけでできているかは不明ですが、頑張ります！ 少林寺拳法の教えは、道場内に留まりません。自分と周りの人が幸せでいられるように考え行動することは、どの場面でも大事です。そのためにも、自分のできることを増やそうと色々勉強しています。

道院長を目指すあなたへ

道院長になるにあたって大事なことはたくさんあると思いますが、やはり「気持ち」は大切です。「道院長になりたい」という強い気持ちと、「失敗してもいい」という軽い気持ち。私はこの2つでやってきました。失敗もたくさんしてきました。でも、大丈夫です。一生懸命やっている姿を周りには見えています。道院長は「一人」ですが「独り」ではありません。これから、道院長になれるというタイミングがくると思います。その時は、是非勇気を出して一歩踏み出してください。拳士の時に見られなかった景色に驚いてください。道院長は大変ですが、その分楽しいことも多いですよ。待っています！



※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

研修会・講習会(地方)

開催報告

●教区研修会

「1月24日」東京都教区《オンライン開催(ライブ配信)》

●小教区研修会

「3月28日」奈良桜井小教区

「4月4日」奈良宇陀小教区

「4月4日」奈良市北部小教区

「4月25日」若手盛岡・岩手県南小教区(合同開催)

「5月9日」青森南部小教区

「5月9日」神奈川西湘小教区

「5月13日」静岡伊豆小教区

緑の輪袈裟

松戸上本郷道院

昇級試験の合格証書授与式で使用しました。

本人は輪袈裟について「楽しかった」とシンプルなコメントをしていました。

まずはわかりやすい形で楽しみつづ金剛禪に触れてもらい、今後深みを学んでもらえればと考えています。

(道院長 植竹 康夫)



(道院長 渡辺 浩志)

滋賀瀬田道院
新春法会で使用しました。正直、コロナ禍で十分な使用はできておりませんが、はやく皆で集える日を楽しみにしています。



愛知浄水道院
入門式の様子です。



坂出専修道院
少年拳士も輪袈裟を着用しています。

INFORMATION

道院認証

●設立

■2021年4月1日付

有田東道院 中西 雅重

■2021年6月1日付

松戸上本郷道院 植竹 康夫

●参与

■2021年4月1日付

明石道院 金子 隆史

●交代

■2021年4月1日付

渋谷道院 一場 久幸
東京錦糸道院 山口 直人

新潟江南道院

伊那道院

高知港道院

別府西道院

高千穂道院

■2021年5月1日付

宇部道院

小熊 幸成

飯島 伸一

川村 高史

大村 一夫

田上 幸生

伊藤 雅浩

法階昇格者

大範士

■2020年3月15日付

小笠原 國勝(和歌山宮道院)

正範士

■2020年3月15日付

安藤 純一(東京上北沢道院)

准範士

■2020年3月15日付

満田 隆三(大阪千船道院)

■2020年9月27日付

西村 やよひ(大阪住吉道院)

■2020年12月13日付

木村 俊介(八代白鷺道院)

※次頁に続く

僧階昇任者

大導師

■2021年3月20日付

長内 哲男（青森南道院）
伊藤 忠行（盛岡観武道院）
佐藤 和一（花巻南道院）
古藤野 好信（石巻道院）
立川 文雄（埼玉藤久保道院）
本多 智裕（浦安道院）
本間 一平（新発田道院）
大塩 孝（沼津白銀道院）
安藤 隆（富士西道院）
奥谷 成弘（名東道院）
立岩 弘（愛知中原道院）
北村 誠（名古屋北道院）
柴田 昭三（精華道院）
岡 寛（梅津道院）
森川 弘仁（京都上植野道院）
森田 典秀（鳥取浜坂道院）
藤井 康成（福山東道院）
藤野 起夫（阿波市場道院）
中村 文夫（福岡筑紫ヶ丘道院）

権大導師

■2021年4月1日付

池田 進（酒田中部道院）
佐藤 雄一（武蔵浦和道院）
白茂 雅彦（秦野道院）
蘇原 義和（横浜星川道院）
末次 平八郎（大阪新淀川道院）
佐古 利和（箕島道院）
西島 教治（長崎西道院）

中導師

■2021年4月1日付

柿谷 隆之（札幌豊平道院）
松村 高志（三沢中部道院）
森 鉄也（八戸南郷道院）
橋本 敏春（熊谷西道院）
清水 一志（千葉清見台道院）
南 充広（東京蒲田道院）
江坂 翔太（一宮富士道院）
鈴木 拓史（洛南道院）
山下 信（洛陽道院）
安道 亮（京都鴨川道院）

桶土井 一博（岸和田道院）
北島 孝教（大阪池田道院）
大塚 隼斗（豊中岡町道院）
中本 悟史（姫路西道院）
本慶 忠士（川西南道院）
岩田 泰彦（阿波池田道院）
松浦 和也（伊予津島道院）
鈴木 翔貴（別子道院）
丸山 恭（松山中央道院）
濱田 公正（宇和島道院）
原 秀作（新居浜瀬戸道院）
山本 堅一郎（愛媛宇和道院）
福岡 裕樹（八代道院）

■2021年5月1日付

丹羽 太一（渋谷笹塚道院）
渡谷 真一（広島基町道院）

権中導師

■2021年4月1日付

奥澤 洋志（山形中部道院）
鈴木 卓児（埼玉藤久保道院）
森 勇樹（調布道院）
町野 斉（川崎西道院）
澤中 賢一（小千谷中部道院）
兼子 拓也（三方ヶ原道院）
宮本 宗治（伊豆荏山道院）
石和 千了（伊豆荏山道院）
芹澤 宗丸（伊豆荏山道院）
村田 佐和子（伊豆荏山道院）
寺島 圭一（名古屋一社道院）
坂本 康成（奈良中央道院）
木村 龍太郎（奈良中央道院）
林 美佳（豊島西道院）
浅芝 春美（東吉野道院）
岩永 哲夫（岡山中央道院）
高橋 康夫（丸亀京極道院）
庭田 孝男（阿蘇白水道院）

少導師

■2021年4月1日付

大條 郁生（苫小牧中央道院）
岸本 亮太（苫小牧中央道院）
小松 次一（札幌もいわ道院）
吉野 達夫（札幌豊平道院）

笠原 裕也（札幌豊平道院）
大藤 卓也（江別大東道院）
岩田 信一（江別大東道院）
清川 貴久（江別大東道院）
國本 空良（富良野光明寺道院）
山内 貴裕（富良野光明寺道院）
中川原 圭亮（仙台宮城野道院）
金田 大史（宇都宮青雲道院）
小此木 哲雄（渋川道院）
水村 英彰（川越道院）
植本 弘明（柏道院）
伊藤 友彦（千葉海匠道院）
外山 隆一（八王子富士森道院）
杉山 章（東京蒲田道院）
桜井 拓（あきる野道院）
壁屋 秀彦（東京国分寺道院）
斉藤 秀明（日野桜道院）
神戸 史麻（日野桜道院）
牧野 剛（日野桜道院）
小林 邦男（日野桜道院）
目黒 壽幸（日野桜道院）
石倉 朝之（東京上北沢道院）
中村 圭佑（東京上野道院）
吉田 瑠奈（東京西品川道院）
川合 健介（東京西品川道院）
鷺森 朝成（横浜鶴見道院）
秋吉 陽介（川崎西道院）
岡井 和久（川崎西道院）
矢島 洋子（川崎西道院）
北澤 龍（川崎西道院）
香山 姫翠（相模大野道院）
石黒 琢磨（横浜星川道院）
中村 友紀（金沢東道院）
從二 麻呂（金沢東道院）
佐藤 潤一（山梨郡内道院）
野田 明伸（清水袖師道院）
朝日 紀貴（名法道院）
清水 奨万（名法道院）
今泉 正文（熱田道院）
岩瀬 聡太（江南道院）
池田 美南海（武豊みなみ道院）
植木 葉月（名古屋前之輪道院）

赤塚 真吾（三重津城北道院）
赤塚 智久（三重津城北道院）
赤塚 賢司（三重津城北道院）
足立 靖恵（三重多度道院）
三上 晴也（京都春日道院）
宇都宮 幹人（大阪伊吹道院）
青木 雅敏（大阪福島道院）
前田 明義（大阪北道院）
山部 晃治（大阪池田道院）
帽子 新（大阪高槻道院）
黒木 智廣（大阪摂津峡道院）
荒田 淳一（泉北桃山台道院）
山中 健一（泉北桃山台道院）
登 健太郎（泉北桃山台道院）
村上 哲（泉北桃山台道院）
堀田 彬文（大阪旭道院）
宮迫 汰一（豊島西道院）
岡井 忠彦（大阪千船道院）
中林 裕貴（茨木東奈良道院）
坂元 孝史（神戸鷹取道院）
是常 優太（西脇南道院）
林 健太郎（大久保山手道院）
吉野 暢（生駒道院）
樋口 篤史（生駒道院）
土井 英和（田辺西道院）
峯玉 佳樹（田辺西道院）
高山 弘和（田辺西道院）
宮井 朗（田辺西道院）
道脇 隆広（田辺西道院）
川村 博一（田辺西道院）
西 貴弘（田辺西道院）
奥平 拓也（田辺西道院）
大橋 俊之（紀州本町道院）
藤原 薫（福山東道院）
富田 真光（本部道院）
川本 大真（松山城北道院）
佐藤 弘子（福岡西道院）
原口 竜輔（太宰府青山道院）
林 藤善（伊万里道院）
林 善貴（伊万里道院）
加々良 宗澄（大村西道院）
見明 輝尚（別府西道院）

お布施

物故指導者顕彰法要

▷仙台中央道院 阿部 二三男 20,000円
▷杉並永福道院 分藤 秀明 20,000円
▷山上 万智子 10,000円

布施

▷高松木太道院 鎌田 智 100,000円

▷宇都道院 佐々木 真人 50,000円
▷木下 巖 30,000円
▷高砂南道院 梅里 幸治 20,000円
▷豊田末野原道院 服部 俊美 10,000円
▷根津 良幸 10,000円
▷川崎稲田道院 篠原 瑠璃音 5,000円

訃報

ほりえ まさみ

堀江 正美 越前府中道院道院長、第259期生、大導師正範士七段、2021年4月7日逝去、満70歳

しもかわ まさはる

下川 正春 佐世保道院道院長、第283期生、大導師正範士七段、2021年4月25日逝去、満68歳

編集後記▶本号4頁と5頁のそれぞれに宗道臣の写がある。一枚はまだ幼い頃の理男。もう一枚は志を確立し、少林寺拳法を創始した後の道臣。読者の皆さんはこの二枚の写を見比べて、どのような違いを感じ取られるだろうか。▶4頁の写は、理男少年は兄として二人の妹を心配し見守っている。また、母親のやや後ろに位置していることから、息子として一家を支えている母の少しでも力になってあげたいという気持ちにがにじみ出ているだろうか。▶長じて、さまざまな体験を経て、志を確立した後の道臣の眼差しからは、泰然自若としたぶれない信念と未来への希望が感じ取れないだろうか。▶では、自分に置き換えた時、今、どんな顔だろう。確固たる信念と希望を抱いて、ぶれない生き方をしていだろうか。互いに生き活きとした"いい顔"で生きていこうではないか。合掌(い)

表紙▶三野智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに「あ・うん」の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶
<https://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
 管長法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅

検索

●お詫びと訂正

「あ・うん」第76号(2021年5月1日発行)10ページに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
 九段昇格者、誤)2021年3月15日付→正)2020年3月15日付

あ・うん vol. 77
 金剛禅総本山少林寺広報誌 2021 文月・葉月

2021年7月1日発行

発行人：大澤 隆

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<https://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：飯野貴嗣

印刷・製本：株式会社ムレコミュニケーションズ

広報誌「あ・うん」追加発送について ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数に応じて10～20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山布教課にお申し出ください。

TEL.0877-33-1010

e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

いち ご いち え
 一期一笑



イラスト／大原由軌子

大阪伊吹道院 道場長 高田大輔

新年を伊吹ファミリーで祝う

1月30日、大阪伊吹道院において61年目の門出を祝う新春法会を執り行いました。今年には感染予防の観点から、来賓なし、時間短縮、ぜんざい会中止という例年にない式典となりました。今年の奉納演武者は、昨年復帰された小西英徳名誉幹部(今年71歳)、室光名誉幹部(今年70歳)によります141歳演武を披露いただきました。密にならないように、誰もいない時間を縫って稽古を続けられたお二人による演武は、迫力そのもの。見ている門下生が「怪我しないかな」と心配になるほどの迫力の突き蹴りに驚くばかりでした。門信徒代表あいさつでは、昨年十二月初段となった宇都宮幹人拳士から「コロナ禍における修練の難しさ」とありがたさを知り、そしてコロナ禍で混乱した世の中には、改めて本当の強さという教えが必要と感じました」

と力強く挨拶されました。道院長年頭あいさつにおいては「誰も経験したことのないマスク着用、遠間での修練が続いています。もう少し我慢が必要ですが、うちではソーシャルディスタンスではなく、フィジカルディスタンスでいきましょう。物理的な距離は必要ですが、心と心まで距離を取ることは不要です。また、先程の奉納演武、素晴らしいものでした。昔取った杵柄とは言え、私の大先輩のお二人がこのように演武されると、私たち五十代、四十代は年齢のことで文句は出ないですね。でも体には十二分にご注意いただき、稽古していただきたいです」

今後とも皆で力を合わせ、困難を乗り越え、伊吹ファミリーとして精進して参ります。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp



宗門の行としての少林寺拳法

行として修練に取り組んでいるか

修練においては、相手を仮定の「敵」と見立てて、対抗的な意識で取り組み、手荒に扱っていることはないだろうか。

少林寺拳法が「行」であるためには、たとえば、守者になった場合には、「相手は私のために攻撃してくれている」という意識を持ち、攻者を務める場合には「相手に上手くなって欲しい」という意識で取り組むことが肝要である。

→詳細は7ページ「宗門の行」へ



龍王拳 押切抜

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイトで動画をご覧いただけます。

文／中川 純 演武者／飯野貴嗣 准範士七段、中川 純 正範士七段